

平成 27 年 9 月 2 日

厚生労働省保険局長
唐澤 剛 殿



四病院団体協議会

一般社団法人 日本病院会
会長 堺 常雄

公益社団法人 全日本病院協会
会長 西澤 寛俊

一般社団法人 日本医療法人協会
会長 加納 繁照

公益社団法人 日本精神科病院協会
会長 山崎 學

平成 28 年度 診療報酬改定に向けた救急医療に対する要望について

総務省消防庁「平成 26 年版 救急救助の現況 I 救急編」によると、平成 25 年中における救急自動車による医療機関への搬送人員 533 万 4,930 人のうち、私的医療機関に搬送された者は、299 万 2,678 人(56.1%)と最も多く、その中で救急告示病院へ搬送された者は、262 万 7,746 人となり 87.8%に達している。また、救急自動車による搬送人員の傷病程度数は、軽症 266 万 7,527 人(49.9%)、中等症 210 万 8,748 人(39.5%)であり、全搬送人員の約 9 割を占めている。但し、傷病程度で軽症とされた患者は、病態的に軽症なのではなく、救急外来で必要な検査・処置等を実施し、外来治療の結果帰宅できる方々を意味しているもので、軽症が全て症状の軽い搬送患者という訳ではない。つまり、私的の二次救急・救急告示医療機関などが、大多数の軽症、中等症の救急搬送患者を受入れている。また、高齢者の救急搬送患者は急速に増加しており、合併症、治療期間の長期化など、病院職員はこれらの対応に苦慮、疲弊している。

更には、全日本病院協会救急・防災委員会が 2014 年 12 月に会員病院の二次救急・救急告示医療機関に行った、「救急患者の受入状況等におけるアンケート調査結果」によると、救急患者を受入れるために平均で医師 2~3 人、看護師 2~4 人、診療放射線技師 1~2 人、その他職種 1~3 人で対応している一方、救急医療受入体制の医師・看護師・診療放射線技師・その他職種(薬剤師等)毎の受入れ体制数に応じた人件費を集計した結果、病床規模別では差があるが、50 床以下から 300 床以上までの全体平均額は、年間で 187,554,988 円であった。(詳細は、別添資料を参照) 故に、これらの患者を 24 時間 365 日受入れる体制の維持や患者への処置は、大変な労力・費用等を費やしていることから、二次救急医療機関、救急告示医療機関などが救急搬送患者(在宅の高齢者などを含む)を受入れた場合の診療報酬上の評価を要望する。

1. 夜間休日救急搬送医学管理料について

同管理料は、二次救急医療機関等が、深夜、時間外(土曜日に限る)、休日に救急用(消防法等に定められたもの)の自動車等により搬送された患者に対し、必要な医学管理を行った場合、初診料を算定する初診の日に限り、200点算定できる。また、急性薬毒物中毒(アルコール中毒を除く。)と診断された患者又は過去6月以内に精神科受診の既往がある患者に対して必要な医学管理を行った場合には、精神科疾患患者等受入加算として、400点を所定点数に加算する。

【要望事項1】

救急対応を必要とする患者は、昼夜を問わず搬送されて来るため、同管理料を終日算定できるように算定要件の緩和と更なる評価2,000点を要望する。

【要望事項2】

高齢者の救急搬送は、認知症患者の割合が多く、意思疎通が困難、処置室で暴れたりするなど、認知症高齢者の救急医療管理は、大変な労力と時間を要することから、認知症患者への対応についても精神科疾患患者等受入加算が算定できるよう要望する。

2. 救急医療管理加算について

二次救急医療機関等は、緊急に入院が必要とする重症患者に対して救急医療が行われた場合、入院した日から起算して7日に限り、救急医療管理加算1として1日800点、救急医療管理加算2として1日400点算定できる。

【要望事項3】

救急医療管理加算と三次救急医療機関での救命救急入院料を算定する対象患者は、意識障害、昏睡、呼吸不全、心不全、急性薬物中毒、ショック、重篤な代謝障害(肝不全・腎不全・重症糖尿病等)、広範囲熱傷、外傷・破傷風等で重篤な状態にある患者であり、これら同じ対象患者を診療しているにも関わらず、二次救急医療機関等における診療報酬上の評価があまりにも低いことから、救急医療管理加算1、また準ずる救急医療管理加算2の更なる評価を要望する。

以上

救急患者の受入状況等におけるアンケート調査結果概要【抜粋版】

昨年 10 月 7 日に実施した、救急患者の受入状況等におけるアンケート調査結果が纏まりましたので、ご報告申し上げます。

記

1. 経緯

近年の救急医療需要の増大に対し、救急告示・2次救急医療機関に対する救急患者の受入状況を把握するため。

2. 調査期間

平成 26 年 11 月 17 日～12 月 27 日

3. 調査施設数

全日病会員病院中の救急告示病院及び 2 次救急指定病院 (1185/2427)

4. 回答数・率

134/1185 (11.3%)

5. 経営主体別病院数

経営主体別	病院数	経営主体別	病院数
①医療法人	73	⑤公益法人	7
②社会医療法人	28	⑥国公立・公的	8
③個人	2	⑦その他	13
④大学	3	計	134

6. 結果

救急医療受入体制（平日夜間・土曜日勤・土曜夜間・日曜毎）の、医師・看護師・診療放射線技師・その他職種（薬剤師等）毎の受入れ体制数を集計し、その数に平成 25 年度職種別平均時給（厚労省 賃金構造基本統計調査より）を乗じるなどの集計分析を行った。

救急医療受入体制における病床規模別人件費は、下記の結果となった。

救急医療受入体制（病床規模別人件費、週間/月間/年間）			
（単位：円）	週間	月間	年間
50 床以下	1,362,592	5,450,368	70,854,784
50-99 床	1,816,357	7,265,427	94,450,547
100-199 床	2,748,626	10,994,504	142,928,552
200-299 床	3,576,453	14,305,814	185,975,577
300 床以上	5,623,022	22,492,090	292,397,167
全体平均	3,606,827 円	14,427,307 円	187,554,988 円

救急医療管理加算2を算定している患者像(病名、症状)は、下記のとおり。

【病名】

- ・脳梗塞急性発症、敗血症、脳梗塞、蜂窩織炎、腹膜炎、腹部膨満、浮腫著明(腹水症)、発作性上室性頻拍、大腿骨転子部骨折、気管支肺炎、腰部脊柱管狭窄症、肝機能障害による乳酸アシドーシス疑い、総胆管結石管炎等

【症状】

- ・来院時、脳卒中で緊急入院となったため胸水・腹水あり、呼吸苦にて酸素投与必要とし、全身状態不調、緊急で入院加療を必要とする重篤な状態
- ・脱水症と不整脈による意識障害を合併した。
- ・構音障害、左半身麻痺あり、重篤な状態
- ・腰背部痛による歩行困難
- ・子宮頸管長短縮、子宮収縮抑制で妊娠期間延長を図る。
- ・下部消化管出血による全身状態の不良
- ・高度の脱水と低リン血症のための全身衰弱による虚脱状態の為、輸液等により全身管理が必要。
- ・上部消化管出血・吐血・貧血のため、緊急輸血
- ・絶飲食で頻回の経過観察を要す。
- ・不明熱、嘔吐、腹痛、低酸素状態
- ・めまい高度
- ・肺炎により重篤な状態
- ・血便を認めHb8.2/dlと低値で、CTで癌が疑われ精査を要する。
- ・限局性腹膜炎による重篤

以上

総務省消防庁・平成26年版救急救助の現況（抜粋）

（5）年齢区分別の傷病程度別搬送人員

搬送人員を年齢区分別及び傷病程度別にみると、新生児と高齢者は中等症の割合が高く、乳幼児、少年及び成年では軽症の割合が高くなっている。（第43表参照）

第43表 救急自動車による年齢区分別の傷病程度別搬送人員の状況

（平成25年中）

年齢区分 程度	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計
死亡	77 (0.6)	478 (0.2)	277 (0.1)	14,814 (0.7)	62,515 (2.1)	78,161 (1.5)
重症	2,161 (15.9)	4,298 (1.7)	4,673 (2.3)	119,468 (6.1)	343,575 (11.9)	474,175 (8.9)
中等症	9,462 (69.6)	52,826 (21.0)	45,316 (22.5)	625,672 (31.8)	1,375,472 (47.4)	2,108,748 (39.5)
軽症	1,802 (13.2)	192,804 (76.6)	150,331 (74.7)	1,207,553 (61.2)	1,115,037 (38.4)	2,667,527 (49.9)
その他	90 (0.7)	1,200 (0.5)	785 (0.4)	4,926 (0.2)	4,505 (0.2)	11,506 (0.2)
合計	13,592 (100.0)	251,606 (100.0)	201,382 (100.0)	1,972,433 (100.0)	2,901,104 (100.0)	5,340,117 (100.0)

（注）（ ）内は年齢区分別の構成比（単位：％）を示す。

5 救急自動車による疾病分類別、年齢区分別及び傷病程度別急病の搬送人員

平成25年中の救急自動車による急病の搬送人員337万105人の疾病分類別、年齢区分別、傷病程度別の状況を示したのが第44表、第45表及び第46表である。

疾病分類別でみると、脳疾患、心疾患等を含む循環器系が多く、59万7,202人（17.7%）となっている。特に高齢者ではその割合が高くなっており、22.6%を占めている。（第44表参照）

また、年齢区分別傷病程度でみると、全体では中等症以上（傷病程度「その他」を除く）の割合は、50.7%となっているが、高齢者では61.3%と高くなっている。（第46表参照）

第44表 救急自動車による急病の年齢区別の疾病分類別搬送人員の状況

(平成25年中)

年齢区分		新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計
分類項目	脳疾患	14 (0.8)	2,773 (1.8)	2,438 (3.1)	72,716 (6.3)	216,112 (10.9)	294,053 (8.7)
	心疾患等	19 (1.0)	347 (0.2)	929 (1.2)	70,512 (6.1)	231,342 (11.7)	303,149 (9.0)
	消化器系	73 (4.0)	7,596 (5.0)	8,316 (10.6)	150,552 (12.9)	181,385 (9.2)	347,922 (10.3)
	呼吸器系	171 (9.3)	17,190 (11.3)	7,724 (9.8)	66,220 (5.7)	228,300 (11.6)	319,605 (9.5)
	精神系	4 (0.2)	353 (0.2)	5,246 (6.7)	97,055 (8.4)	23,816 (1.2)	126,474 (3.8)
	感覚系	22 (1.2)	8,091 (5.4)	7,977 (10.1)	62,775 (5.4)	71,507 (3.6)	150,372 (4.5)
	泌尿器系	3 (0.2)	187 (0.1)	980 (1.2)	58,508 (5.0)	51,446 (2.6)	111,124 (3.3)
	新生物	2 (0.1)	26 (0.0)	85 (0.1)	14,055 (1.2)	42,631 (2.2)	56,799 (1.7)
	その他	815 (44.2)	29,193 (19.2)	15,960 (20.3)	209,367 (18.0)	316,487 (16.0)	571,822 (17.0)
	症状・徴候・診断名 不明確の状態	719 (39.0)	86,425 (56.8)	28,989 (36.9)	359,418 (31.0)	613,234 (31.0)	1,088,785 (32.2)
	合計	1,842 (100.0)	152,181 (100.0)	78,644 (100.0)	1,161,178 (100.0)	1,976,260 (100.0)	3,370,105 (100.0)

(注) 1 急病の疾病分類とは、急病に係るものについて初診時の医師の診断に基づく傷病名をWHO(世界保健機関)で定める国際疾病分類(ICD)により分類したものである。

(1) 「脳疾患」とは「IX循環器系の疾患」のうち「a-0904 脳梗塞」及び「a-0905 その他の脳疾患」をいう。

(2) 「心疾患等」とは「IX循環器系の疾患」のうち「a-0901 高血圧性疾患」から「a-0903 その他の心疾患」まで、及び「a-0906 その他循環器系の疾患」までをいう。

(3) 「消化器系」とは、「XI消化器系の疾患」をいう。

(4) 「呼吸器系」とは、「X呼吸器系の疾患」をいう。

(5) 「精神系」とは、「V精神及び行動の障害」をいう。

(6) 「感覚器系」とは、「VI神経系の疾患」、「VII眼及び付属器の疾患」、「VIII耳及び乳様突起の疾患」をいう。

(7) 「泌尿器系」とは、「XIV腎尿路生殖器系の疾患」をいう。

(8) 「新生物」とは、「II新生物」をいう。

(9) 「その他」とは、上記以外の大分類項群「I・III・IV・XII・XIII・XV・XVI・XVII・XIX・XX・XXI」に分類されるもの及び医療機関以外に搬送されたものをいう。

(10) 「症状・徴候・診断名不明確の状態」とは、「XVIII症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの」をいう。

なお、「〇〇の疑い」はすべてその傷病名により分類する。

2 ()内は年齢区別の構成比(単位:%)を示す。

第45表 救急自動車による急病の傷病程度別の疾病分類別搬送人員の状況

(平成25年中)

程度		死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
分類項目							
循環器系	脳疾患	1,934 (3.1)	70,684 (25.8)	160,877 (11.7)	60,558 (3.7)	0 (0.0)	294,053 (8.7)
	心疾患等	23,512 (38.3)	57,255 (20.9)	128,770 (9.4)	93,612 (5.6)	0 (0.0)	303,149 (9.0)
消化器系		946 (1.5)	18,228 (6.7)	165,248 (12.0)	163,500 (9.9)	0 (0.0)	347,922 (10.3)
呼吸器系		3,040 (5.0)	34,189 (12.5)	171,762 (12.5)	110,614 (6.7)	0 (0.0)	319,605 (9.5)
精神系		12 (0.0)	1,869 (0.7)	25,195 (1.8)	99,398 (6.0)	0 (0.0)	126,474 (3.8)
感覚系		80 (0.1)	2,846 (1.0)	48,424 (3.5)	99,022 (6.0)	0 (0.0)	150,372 (4.5)
泌尿器系		278 (0.5)	3,862 (1.4)	42,031 (3.1)	64,953 (3.9)	0 (0.0)	111,124 (3.3)
新生物		2,366 (3.9)	13,277 (4.8)	34,277 (2.5)	6,879 (0.4)	0 (0.0)	56,799 (1.7)
その他		5,554 (9.0)	22,855 (8.3)	216,140 (15.7)	323,074 (19.5)	4,199 (74.1)	571,822 (17.0)
症状・徴候・診断名 不明確の状態		23,747 (38.6)	49,161 (17.9)	381,182 (27.8)	633,230 (38.3)	1,465 (25.9)	1,088,785 (32.2)
合計		61,469 (100.0)	274,226 (100.0)	1,373,906 (100.0)	1,654,840 (100.0)	5,664 (100.0)	3,370,105 (100.0)

(注) ()内は構成比(単位:%)を示す。

第46表 救急自動車による急病に係る年齢区分別の傷病程度別搬送人員の状況

(平成25年中)

年齢区分	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計
程度						
死亡	60 (3.2)	342 (0.2)	65 (0.1)	8,676 (0.7)	52,326 (2.7)	61,469 (1.8)
重症	108 (5.9)	1,633 (1.1)	891 (1.1)	59,796 (5.2)	211,798 (10.7)	274,226 (8.2)
中等症	762 (41.3)	33,447 (22.0)	18,199 (23.1)	375,338 (32.3)	946,160 (47.9)	1,373,906 (40.7)
軽症	899 (48.9)	116,104 (76.2)	59,220 (75.3)	715,002 (61.6)	763,615 (38.6)	1,654,840 (49.1)
その他	13 (0.7)	655 (0.5)	269 (0.4)	2,366 (0.2)	2,361 (0.1)	5,664 (0.2)
合計	1,842 (100.0)	152,181 (100.0)	78,644 (100.0)	1,161,178 (100.0)	1,976,260 (100.0)	3,370,105 (100.0)

(注) ()内は構成比(単位:%)を示す。